

算数科 小学校 5年

単元の流れ (全18時間)

【第1次】

主な学習内容

- ◇第1時 体験学習の希望調査をもとに、定員と希望者数の関係を考え、割合の意味を知る。
- ◇第2～4時 関係図や線分図を用いて、全体と部分の割合や部分と部分の割合、比べる量、もとにする量の求め方を理解する。

「知識・技能」を定着させるために

- ・問題文に線を引いて、もとにする量、比べる量、割合をはっきりさせる。
- ・関係図、線分図について共通な作成手順を示しながら定着を図る。



【第2次】

主な学習内容

- ◇第5時 百分率の用語と1%の意味について知り、身の回りから百分率で表されるものをさがす。
- ◇第6時 関係図を使って、百分率の求め方を理解する。
- ◇第7時 関係図を使って、比べる量の求め方を理解する。(本時)
- ◇第8時 割合に関する作問を通して、百分率、比べる量、もとにする量を求める。
- ◇第9時 練習問題を解く。

「知識・技能」を定着させるために

- ・児童の身の回りで割合が使われているものを提示し、百分率と小数倍との関係を理解させる。
- ・練習問題を身近な内容にして、問題を繰り返しさせる。

「活用」の力の育成のために

店の売り出しの広告を出すことを課題とし、グループ活動に関心・意欲をもたせる。

単元名 「割合～くらべ方を考えよう～」
啓林館 「わくわく算数5下」(旧版)

*旧教科書に即した展開例

単元目標

- 割合の意味について理解し、小数や百分率を用いて問題を処理する。また、求めた割合を帯グラフや円グラフに表す。

単元構成の意図

本単元では、割合や百分率とその活用、割合のグラフなどを学習する。事前に、レディネステストを行う。テストの範囲は、3年生と4年生の「何倍になるのかな」の評価問題を使用する。レディネステストの結果から考えられることは、次の4つである。

- ① 何がもとにする量なのかを判断する力が弱い。
- ② 比べるものが3つ以上になると、思考の整理がしにくい。
- ③ 誤答で多かったのは、倍同士でたし算をしたりひき算をしたりしているものである。
- ④ 図をかきなれていなかったり、作問したりすることに慣れていない。

以上の点を踏まえ、本単元では、次のことに指導の重点を置き、学習を進める。

- ① もとにする量、比べる量、割合をはっきりさせ、問題に当てはめて解決させる。
- ② テープ図、線分図、関係図などの図を書くことで、図の有用性に気付かせ、思考を整理しやすくする。
- ③ 「倍」の意味理解について、学年をさかのぼった学習内容の定着をチャレンジタイムなどで図る。
- ④ 自力解決の際には、必ず図をかいて(式が先でも、図が先でも構わない)、自分の考えを表現させる。
- ⑤ 形成的な評価に加え、ステップ式の問題に取り組ませるようにする。

【第3次】

主な学習内容

- ◇第10時 帯グラフと円グラフの意味を理解し、それらのグラフを読む。
- ◇第11時 帯グラフと円グラフをかく。

「知識・技能」を定着させるために

今までに習ったグラフを提示し、違いに着目させ、部分と部分を比較させるなど、丁寧に読み取らせる。

【第4次】

主な学習内容

- ◇第12時 全体を1として、割合の積を考えて問題の解決をする。
- ◇第13時 もとにする量の何倍にあたるかを考えて、2つの量の和にあたる大きさを求める。
- ◇第14時 たしかめ道場（練習問題）をする。

「活用」の力の育成のために

線分図や関係図を使ったりして、問題の意味を整理しながら考えさせる。

【第5次 第15～18時】

主な学習内容

- ◇第15時 割合、比べる量、もとにする量を求める。
- ◇第16時 身の回りの資料や自分で調べたことを、割合を使ってグラフに表す。
- ◇第17時 既習事項の復習をする。
- ◇第18時 評価テストをする。

CLICK

評価問題

「活用」の力の育成のために

- ・「買い物」という日常生活に即した場面において、多様なコースを設定し慣れさせる。
- ・修学旅行に向けて調べたことをグラフにして、そこから読み取ったことをレポートにまとめさせたり発表させたりする。

詳しい単元指導計画はこちら

CLICK

「活用」の力を育てるポイント

- ① 店の売り出しのチラシを出すことを課題にして、実生活に近い場面での応用に取り組みさせる。
- ② 線分図や関係図を活用し、自らの立式を説明させる。
- ③ 「買い物」という日常生活に即した場面設定で、関係づくりに取り組ませる。
- ④ どちらを購入するのが得であるかを課題として問題を解決させる。

「知識・技能」定着のためのポイント

- ① 問題文の中のもとにする量、比べる量、割合に下線を引いて、何を求める問題なのか理解させる。
- ② 実際のテープを使って、視覚的に量感を伴った意味理解を図る。
- ③ 関係図と線分図の共通な作成手順を示しながら定着を図り、図が有効であることをおさえる。
- ④ 今までに習ったグラフと比較し、違いに着目させる。

HOME

本時の流れへ